

1 自己評価及び外部評価結果

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070700055
法人名	社会福祉法人 睦会
事業所名	グループホーム ホットファミリーやすらぎ
所在地	長野県須坂市大字日滝字寺窪2887-1
自己評価作成日	平成22年3月10日
評価結果市町村受理日	平成22年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070700055&SCD=320>

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 長野県高齢者福祉協会
所在地	長野市南長野南県町1001番地3 ロワール丸ビル4階
訪問調査日	平成22年3月10日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

・併設の保育園との交流、小、中学校との交流、ボランティアとの交流等、地域の幅広い方々との交流を行なっている。
--

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

四季折々の風景が感じられる環境の中で、併設施設との交流、小中学校との交流、地域との交流などなど今まで築いてきた歴史が活かされている。施設内・併設施設内に掲示してある数々の写真、地域住民から花見のお誘いがあることなどから地域とともに歩んでいることがうかがえる。この評価のまとめの最中、北海道のあるグループホームで火災が発生し8人中7人が亡くなられたとの痛ましいニュースがあったがその点ホットファミリーはスプリンクラーの設置、地域の関係団体と防災訓練(展示写真から見る防災訓練中の職員は真剣な眼差し)をするなど安全で安心して生活できる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の時、職員で唱和し確認を行っている。	毎日、朝礼時に法人の理念を唱和し、理念の本質を理解され、日常生活に日々実行されていることが聞き取りから十分把握できた。理念もわかりやすく職員から受け入れられていた。	グループホーム独自の運営理念があるので法人理念とあわせ、朝礼時に法人の理念、グループホームの理念を唱和することで日々の業務の中に理念が生かされていることの再認識を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事を通して、地域の保育園、小、中学校との交流。喫茶、ボランティア交流を行っている。	利用者の友人が訪問するなど個人の間接関係を大切にされていたこと、また地域住民からの藤の花の見学のお誘いなどもあり、地域との交流を大切にしていることが聞き取りや写真からも見て取れた。併設施設も有効に活用されさらに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けて、法人全体で取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催時、グループホームの雰囲気や、利用者の雰囲気を見た上で意見を頂き、サービスの向上に繋げる努力をしている。	運営推進会議は適切に行われており、地区代表、家族代表、高齢者福祉課など参加され話し合われた。第三者評価を受けた報告もされている。家族の思いや行政報告もあり有意義に会議が行われていることが記録から確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター職員が含まれており、連携を行っている。	地域包括支援センター職員との連携が密であり施設の空き情報、申し込み状況など意見交換がされている。空きベッドをショートステイに利用するなど地域から求められているサービスを積極的に取り入れていることは今後も期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深め取り組んでいる。玄関は2箇所あり、1箇所は自由に出入りが出来るようにしている。	身体拘束はできるだけしないという基本姿勢は職員の利用者に接している様子、聞き取りから感じられた。そのことは浴室、トイレなど利用者の立場に立ってハードの面も改善が見られることから見て取れた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチブロックを含む虐待についての理解を深め、人権尊重を大切にすよう、職員周知徹底し努めている。声掛けの仕方について、職員同士、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる利用者がいないため行っていないが、必要に応じ、各関係者と連携が取れるよう体制は整えてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時と、入居された時に、利用約款、重要事項説明書をもとに説明をし理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や意見については、ミーティング時、職員で話し合いを行い、運営に反映させている。意見、要望について家族が伝えやすいよう、玄関に受付ポストを設置。第三者委員を設置。委員のメンバーの中に運営推進協議会委員が含まれている。	利用者家族等アンケート結果からグループホームと家族との関係は非常によいことが伺え、何気ない会話の中から家族の意向をくみ取り、運営に反映されている。また意見・要望など受け入れるポストも2つ有効に設置され運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、意見、提案について話し合いを行いよりよいグループホーム作りを目指している。また、連絡ノートを活用し意見、提案を書いてもらうようにしている。	職員の聞き取りから、日々自分が気がついたこと、提案等はミーティング時や会議で話し合わせ、よりよいグループホーム作りを目指していることが伺えた。また、連絡ノートを活用され職員の意見・提案が反映されるよう運営されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は個々の公休の希望を可能な限り取り入れている。向上については人事考課者制度を設置。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会の情報や、資格取得の受講通知を伝達し、希望があれば受講できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度、グループホームネットワークに参加をし、情報交換、勉強会及び交流を行っている。また、近隣のグループホームの空き状況の情報交換を行い、待機利用者の状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居時、体験入居期間を設けている。本人の要望を最大限に援助する為、本人を含め、多方面から情報収集に努めケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後から、家族の不安に思っていることや、要望を聞きだし、ケアプランに反映させている。又、面会に来られた時に、安心して頂けるよう本人の様子や、近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際、話を伺い、求めているものに対して、必要なサービスの情報を伝える等、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動や、会話を通して、教えたり、教わったりしながら暮らしを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関わりが薄れいよう外出、外泊、面会はいつでも出来ることを説明している。また、受診は家族対応で本人と関わって頂いている。盆、正月はご家族と過ごすことが出来るよう働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会等、制限することなく馴染みの人や場所との関係が途切れないように必要に応じて家族にも協力いただくなど努めている。また、宿泊して一緒に過ごすことが出来る。	利用者の友人が訪問されている等なじみの関係を大切に継続されるよう支援しており、また正月は自宅へ帰られるように家族とのかかわりを大切にしている。聞き取りの職員からもなじみの関係が途切れないように努力されていることが伺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者同士の関係を理解し、良好な関係が築けるよう、さり気なくフォローできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過状況を確認し、ご家族が安心、安定するまではフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿ったケアプランを作成し職員間で情報を共有しケアに努めている。意向に対しモニタリングを行い、困難等あればカンファレンスをし、本人本位のケアに努めている。	利用者担当にてご本人に聞き取りをし、把握されている。また意思疎通が困難な方に対しても職員一人ひとりが気付きを持って日々の生活の中から把握し、ご家族に対しては意向が言いやすいように今のご本人の状態を伝えたくえで確認されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族、及び担当ケアマネージャーと面談を行い、可能な限り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング、ケース記録、活動内容の記録、1w/1回血圧、検温測定。職員連絡ノート等にて情報の共有化を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からケアの意向を伺い、ケアプランの原案を作成し、ケアプラン会議で話し合いを行い現状に即した介護計画を行っている。見直しは3ヶ月に1回だが、状態の変化時は即座に対応をしている。	焦点情報シート・24時間アセスメントシート等様々なアセスメントシートを使用し介護計画に反映されている。またケアプラン会議と題して管理者、看護師、担当職員等、他職種でカンファレンスが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、活動内容の記録、職員連絡ノート等にて情報の共有化を行い、必要に応じて、朝のミーティング時、話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設型の利点を活かし、利用者の状況に応じて柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や、馴染みの美容室利用、地域との交流等、安全面に配慮しながら、一人一人の意向に沿った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からかかりつけの医師に見て頂くよう、家族にお願いをしている。家族付き添い受診をする時、主治医に情報提供書を書き渡している。	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望となっている。受診は原則ご家族にて対応して頂き、ご家族では困難な際は近隣の方に協力して頂くこともある。受診の際は施設から書面にて医師宛てに情報を提供し、診察後は医師から書面にてコメントを頂いている。	ご利用者の受診についてご家族での対応が基本となっておりますが突然の受診や、ご家族の都合等で家族対応が困難な際は職員での対応が出来る仕組み作りを期待いたします。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。利用者の健康状態の把握に努め、何かあれば即、対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり、その病院の連携室担当者と情報の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、重症化した場合や終末期のあり方について職員間で話し合いを行っている。	契約時に重度化した場合やターミナルケアについて併設事業所との連携と合わせて説明を行っている。また現段階での施設の対応可能範囲についても職員間で話し合わせ、ご家族に伝えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って対応できるように職員間で確認している。新人職員に緊急時の対応の仕方、応急処置の仕方について法人全体で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、消防署の協力もと、年1回大規模な防災訓練を実施。その他毎月1回、防災について危険箇所の点検、非常口点検、通報訓練等、行っている。夜勤者は勤務時必ず火災発生時の対応マニュアルを読む事を徹底している。	併設事業所を含めた施設全体で地域との災害協定を締結しており、1年に1回消防署・地域住民と共に大規模な防災訓練を実施されている。また夜勤者は勤務に入る前に災害時のマニュアルを読み、イメージしてから業務に入られている。備品等は施設全体で数日間用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重を念頭に、職員一人一人、常に心掛けて実践している。	入浴時・排泄時は特にご本人の気持ちを大切にケアをしております場合には同姓介護を心掛けている。また入室の際もドアをノックし許可を得てから入室されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、自己決定できるよう反応を観察しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて行っている。ゆとりを持って対応できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や、髪型等、個々の個性に合わせた援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事作りやおやつ作りに携わっている。利用者一人一人の状態に応じて関わられるよう支援している。	メニューは併設施設の栄養士が作成した献立を基にグループホーム独自にアレンジしている。ご利用者の状態に合わせて職員と共に食事作りを行っている。また食器の一部はご自分の使い慣れたものを使用している。	職員の食事は検食者以外は自分で持参された食事を食べることとなっているが、ご利用者と一緒に同じ食事を食べれる環境作りを期待いたします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェックを行い摂取状況の把握に努めている。食事量が少ない利用者には、好みの嗜好品等で摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをするように声を掛け、及び介助にて習慣づけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁予防の為に排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努め適宜トイレへの案内等の援助を行い、失禁を最小限に抑えるよう努めている。	排泄チェック表を使用し、ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し定時の排せつ介助はなく、すべて個別の対応となっている。またおむつ等も一人ひとりの状態や、昼・夜等の時間に応じたものを使用し、自立支援に力を入れられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事や、適度な運動、腹部マッサージ等、排便に繋がるよう取り組みを行っている。色々試しても便秘が改善されない場合は、主治医、家族と相談の上、薬等処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。時間帯は個々の希望を出来る限り尊重し入浴が出来るよう行っている。季節を感じ取っていただけるよう、りんご湯、ゆず湯、菖蒲湯等、季節に応じて楽しめるよう工夫をしている。	ほとんどのご利用者が毎日入浴され、体調不良等で入浴されない日は温かいタオル等で体を拭いていただいている。入浴時間は概ね決まっているが、ご利用者の方々に決めた時間帯となっている。また行事湯としてりんご湯、ゆず湯、菖蒲湯等季節に応じて入浴を楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や、生活習慣に合わせ適宜休息できるように支援している。日中の活動の中に散歩等、折ませながら、夜間の安眠に繋がるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が何の薬を内服しているか、職員がわかるように薬の内容をケース台帳でいつでも確認できるようにしている。内服状況と現在の症状に変化がないか、常に職員間で観察を行い、変化時は看護師に報告。主治医と相談し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	予め、本人の楽しみや、趣味、生きがいについて本人や家族からリサーチし、日々の暮らしの中に取り入れ、力の発揮や楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する居場所があれば、可能な限り外出の援助を行っている。職員では対応しきれない場合は、家族に協力を求めることもある。	行事として遠出をすることもありますが、日常的に地域の保育園や中学校の音楽会・運動会等にも出かけ、近隣の方の声かけでご自宅の藤を観に出かけることもある。また遠出の際などはボランティアの方も同行して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は、買い物や喫茶店を利用している。自己管理が不十分な利用者に対しては、買い物等に一緒に付き添いをする時、財布を渡し購入がすんだら、預かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、その都度、電話の利用を行っている。字を書きたがらない利用者が大半だが、友人や家族から手紙があると喜んでい。年賀状は出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに過ごせるように常に配慮している。(職員の歩き方、音楽、音の大きさ、声のトーン、湿度と温度調節、季節に応じた飾りつけ等)	リビングは間接照明を使用し明る過ぎず、心地よく落ち着ける場となっている。壁飾りはご利用者と職員が共同で作られた作品が展示されており観ていて楽しめる物となっている。また運営推進会議開催の際、メンバーに環境面等を観ていただき、アドバイスを頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が、気軽に会話ができるようにテーブル席の配置等、気配りをし自由に穏やかに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋の中にある物すべて、自宅で使い慣れたもの、馴染みのある物とし、宿泊の際は本人の部屋と一緒に寝ていただいている。	居室は出窓があり適度に明るく、気持ちの良い場となっている。ご利用者自身の家具や思い出の写真が持ち込まれており、馴染みのある物に囲まれ、その人らしく落ち着ける場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」、「出来そうなこと」をアセスメントし、持てる力を最大限に発揮し出来る限り自立した生活を過ごせるように支援している。		